

ポイント- 1 : 南海トラフ巨大地震・津波対策

大阪湾沿岸部は、広大な海拔ゼロメートル地帯に人口・資産や高度な都市機能が集積しており、津波などによりひとたび浸水が発生すると、甚大な人的・物的被害が発生し、我が国全体の国民生活・経済活動に極めて深刻な影響が生じる恐れがあります。

このため、将来の気候変動の影響や南海トラフ巨大地震による津波も考慮し、三大水門（安治川水門、尻無川水門、木津川水門）更新事業を実施しています。

◆三大水門の更新

令和6年度
知事重点事業

平成30年台風第21号では、第二室戸台風を上回る観測史上最高の潮位を記録しましたが、三大水門閉鎖などの適切な操作により市街地の高潮被害（直接的な被害軽減額のための試算で約17兆円）を防ぐことができました。

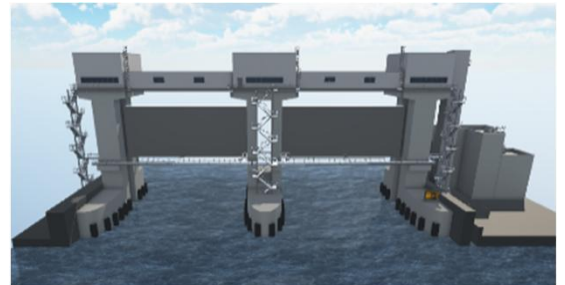
大阪府の高潮対策（イメージ図）



▲平成30年台風第21号到来時の木津川水門

水門を閉鎖することで、観測史上最高潮位（O.P.+4.59m（大阪検潮所））の高潮被害を防止（平成30年9月4日）

※1 14時20分時点の観測値



▲整備後の木津川水門のイメージ

一方で、三大水門は、劣化による更新時期が迫っていることに加え、津波によって損傷する恐れがあります。そのため、将来の気候変動の影響や南海トラフ巨大地震による津波も考慮し、概ね20年をかけて順次各水門の更新を行います。

部局運営方針
②-1

<令和6年度の事業>

最も劣化が進む木津川水門の更新工事を進めるとともに、次に更新期限が迫る安治川水門についても、更新工事に着手します。



▲木津川水門



▲安治川水門